

事業シート5

課コード: 001704000
 担当組織: 産業振興課

作成日: 平成24年4月1日
 責任者: 石川 淳

基本政策	課	政策	目	事業
計画コード 01	03	0106	01	010214

款	項	目	事項
予算コード 31	31	21	70

款	項	目	事項
31	31	21	

事業名: まちなか回遊性促進事業

事業費 (予算) (単位:千円)	23年度	24年度	比較	人工 (正規職員) (単位:人)	23年度	24年度	比較
	51,300	35,300	16,000		0.5	0.5	0.0
24年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他
	300				35,000		0

事業の目的

中心市街地の来街・回遊性の向上、公共交通の利用促進、交流人口の拡大を図るため、循環まちバス「く・る・る」を運行する。

事業内容(平成24年度に何をやるか)

循環まちバス「く・る・る」に対する運行助成

実施主体: 浜松市(事業計画策定: ルート設定、利用料金設定)

運行主体: 遠州鉄道(株)(道路運送法第4条に基づく一般乗合旅客自動車運送事業免許を持つ者)

平成24年度上半期は現行通りの運行とし、下半期は運行形態を見直して実施。

運行概要

- <上半期> 運行時間: 10:00~19:00、運行台数: 5台(東西計4台、南1台)
 運行間隔: 東西・15分(1ルート35便)、南・30分(1ルート18便)
- <下半期> 運行時間: 9:30~17:30、運行台数: 4台(東西3台、南1台)
 運行間隔: 東西・20分(1ルート25便)、南・30分(1ルート18便)

運行形態の見直しスケジュール(予定)

- 5月~6月 地元説明、中区協議会
- 6月22日 浜松市地域公共交通会議
- 8月 静岡県生活交通路線対策協議会、国への届出
- 10月 新運行形態での運行開始

これまでの取組状況(平成23年度に何をを行い、その結果はどうだったか)

循環まちバス「く・る・る」の運行に対し助成している。東・西・南の3ルートで運行を実施。

- 運行時間: 10:00~19:00、運行台数: 5台(東西計4台、南1台)
- 運行間隔: 東西・15分(1ルート35便)、南・30分(1ルート18便)
- 運賃形態: (1乗車)大人100円、子供50円(小学生)
 (1日乗車券)大人200円、子供100円(小学生)

平成23年度利用者数

- 西ルート: 113,332人、東ルート: 118,650人、南ルート: 64,274人、合計: 296,256人
- 1便あたり利用者数
 西ルート: 8.9人、東ルート: 9.1人、南ルート: 9.8人、合計9.2人
- 平成23年度において、想定利用者数(1便あたり10人)の値に近い利用を得られている。

循環まちバス運行システム評価事業を実施し、以下の事業評価を得た。

「く・る・る」は、年間30万人が利用する都心部の移動手段として、都心居住者、来街者に定着している。

利用者は高齢者が6割を占め、利便性が高く、安全・安心な移動手段として活用されており、今後も高齢化が進行してゆく中で、利用需要が増加していくと考えられる。

一方で、市の補助金が運行経費の6割を占めるなど、厳しい財政事情の中、継続的な運行を行うため、利用者数の増加と事業効率を高めていく必要が生じている。

結果、現在の利用者の利便性を可能な限り確保しつつ、交流人口の拡大と浜松の歴史的・文化的資源の再活用を図るため、新たな運行計画のもと「く・る・る」を継続していく必要がある。

開始年度	終了予定年度	事業の性格分類	根拠法令等					
平成 14 年	平成 27 年	自治事務	浜松市循環まちバス運行事業費補助金交付要綱					
会計区分	戦略性	マニフェスト	事業の特徴	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
一般会計								
行革審答申	外部評価	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
	*H20は事業仕分け							

(単位:千円)		H22	H23	H24	H25計画	H26計画	H23～26計
事業費	予算	46,300	51,300	35,300	35,300	35,300	157,200
	決算	46,246	50,999				50,999
財源内訳	国・県支出金						0
	市債						0
	その他						0
	一般財源	46,246	51,300	35,300	35,300	35,300	157,200
	*一般会計繰入						0
人件費(報酬等)							0
人件費		1,600	4,000	4,000	4,000	4,000	16,000
内訳	人工(正規)	0.2	0.5	0.5	0.5	0.5	
	人工(非常勤)						
	人工(再任用)						
年間経費(事業費+人件費)		47,846	54,999	39,300	39,300	39,300	172,899

成果指標1 循環まちバスの利用者数							
種類	アウトプット(活動指標)	単位	H22	H23	H24	H25	H26
	目標	人	310,000	313,000	316,000	319,000	322,000
	実績	人	304,638	296,256			

成果指標2 循環まちバス1便あたりの利用者数							
種類	アウトプット(活動指標)	単位	H22	H23	H24	H25	H26
	目標	人	9.7	9.7	9.8	9.9	10
	実績	人	9.4	9.1			

事業の成果(平成23年度末での目的の実現状況 活動ではなく状態)

平成23年度利用者数

西ルート:113,332人、東ルート:118,650人、南ルート:64,274人、合計:296,256人

1便あたり利用者数

西ルート:8.9人、東ルート:9.1人、南ルート:9.8人、合計9.2人

平成23年度末には運行開始から10年が経過し、運行事業者(遠州鉄道株)との協定が終了するため、不二総合コンサルタント株を委託先として、循環まちバス交通システムのこれまでの10年間の事業評価を実施し、次の評価を得た。

『現在の利用者の利便性を可能な限り確保しつつ、交流人口の拡大と浜松の歴史的・文化的資源の再活用を図るため、新たな運行計画のもと「く・る・る」を継続していく必要がある。』

評価(平成23年度事業の評価)

(1) 必要性: 継続

(廃止した場合に考えられる影響)

年間利用者が30万人に近く、浜松城や遠州病院、静岡文化芸術大学へのアクセス向上に一定の成果を得ている。評価事業においても、利便性が高く、安全・安心な移動手段として活用されており、今後も高齢化が進行してゆく中で、利用需要が増加していくと考えられる、との評価を得ている。

(2) 責任主体: 市

(市が実施しない場合に考えられる影響)

都心の回遊性を高めるため、市が政策的に取り組んでいる事業である。

(3) 拡大・縮小: 縮小

(理由)

平成22年度以降、年間利用者数が30万人前後を維持しながらも、小幅に減少し始めている。補助金が運行経費の6割を占めるなど、厳しい財政事情の中、継続的な運行を行うため、事業計画を見直し、利用者数の増加と事業効率を高めていく必要が生じている。

(4) 改善: その他改善

(理由)

バス事業単体では、直接的な小売販売額や歩行者通行量への反映が難しいこともあり、あらためて都心にある歴史・文化的な施設を巡る機能を強化し、交流人口の増加に向けた施策とすべく、ルート変更や効率化に取り組んでいく。

今後の方向性 改善

平成24年度の下半期より運行形態を変更し、新たな運行計画にて運行を実施し、運行効率を高めて補助金額の縮減を図る。

改革・改善(評価を反映して何を見直したか)

(1) これまでに実施した改革・改善(平成24年度予算で反映したものを含む)

平成14年スタート時の2ルート各35便/日から、より広く回遊性を高めるために、平成19年度より新たに南ループ18便/日を運行している。

運行主体の事業経費削減努力を促し、平成22年度に補助金額を2,000千円減額した。

平成24年度の下半期より運行計画を変更し、補助金額を減額する予定だが、現時点では、削減効果が明確でないため、補正で対応予定。

(2) 今後の改革・改善計画(いつまでに何をどう見直す)

平成24年度上半期は現行通りの運行を行い、下半期に運行形態を見直して運行を実施する。

運行概要

- <上半期> 運行時間: 10:00~19:00、運行台数: 5台(東西計4台、南1台)
運行間隔: 東西・・・15分(1ルート35便)、南・・・30分(1ルート18便)
- <下半期> 運行時間: 9:30~17:30、運行台数: 4台(東西3台、南1台)
運行間隔: 東西・・・20分(1ルート25便)、南・・・30分(1ルート18便)

運行形態の見直しスケジュール(予定)

- 5月~6月 地元説明、中区協議会
- 6月22日 浜松市地域公共交通会議
- 8月 静岡県生活交通路線対策協議会、国への届出
- 10月 新運行形態での運行開始

平成23年度から24年度に係る事業の継続性、利用者の利便性(ICカード等)を鑑み、遠州鉄道と3か年の協定を締結した。

補足シート5 -

	款	項	目	事項	
予算コード	31	31	21	70	05

事業名：循環まちバス運行助成事業

事業費 (予算) (単位:千円)	23年度	24年度	比較	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
	46,300	35,300	11,000					
24年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他	
	300				35,000			0

事業内容(平成24年度に何をやるか)

循環まちバス「く・る・る」に対する運行助成
 実施主体:浜松市(事業計画策定:ルート設定、利用料金)
 運行主体:遠州鉄道株式会社(道路運送法第4条に基づく一般乗合旅客自動車運送事業免許を持つ者)
 平成24年度上半期は現行通りの運行とし、下半期は運行形態を見直して実施。
 運行形態の見直しスケジュール(予定)
 5月~6月 地元説明、中区協議会
 6月22日 浜松市地域公共交通会議
 8月 静岡県生活交通路線対策協議会、国への届出
 10月 新運行形態での運行開始

これまでの取組状況(平成23年度に何をを行い、その結果はどうなったか)

平成23年度利用者数
 西ルート:113,332人、東ルート:118,650人、南ルート:64,274人、合計:296,256人
 1便あたり利用者数
 西ルート:8.9人、東ルート:9.1人、南ルート:9.8人、合計9.2人

補足シート5 -

	款	項	目	事項	
予算コード	31	31	21	70	10

事業名：循環まちバス運行システム評価事業

事業費 (予算) (単位:千円)	23年度	24年度	比較	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
	5,000	0	5,000					
24年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他	
								0

事業内容(平成24年度に何をやるか)

平成23年度で終了

これまでの取組状況(平成23年度に何をを行い、その結果はどうなったか)

評価事業実施に向け、指名競争入札により、委託業者を不二総合コンサルタント(株)とし、学識経験者や事業者・企業、商業者などから構成する検討会議を開催した。
 検討会議により、循環まちバス交通システムの総合的な評価と次の運営に向けた基本的な考え方などをまとめた。